

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第16号
令和7年10月発行

京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当
TEL:075-222-3746



実践推進校対象 幼保小の架け橋プログラム研修会



この研修会は、実践推進校の具体的な実践事例から、有効な取組や手立てなどを共有するとともに、スーパーバイザーの京都教育大学 古賀松香教授のご講演を通して、「架け橋プログラム」の意義や取組の効果について認識を深め、自校園の教育・保育のさらなる質的向上を目的としています。

まず、嵐山東小学校から、年間計画の作成、子ども同士の交流、合同研修会などの実践例の報告がありました。その中の半日入学とは別に2月に実施したオープンスクールの取組を紹介します。

【オープンスクールの取組】

- ・新入学児童とその保護者が小学校生活のイメージがもてることと、不安の軽減を図ることを目的とした。
- ・実施日は、予め年間行事として予定されていた参観日と校内作品展の日をあてたので、教職員への大きな負担はなかった。
- ・幼保園の職員の方も招待をしたので、目指す子ども像や教員の関わり方等について聞いていただき、学校理解につながった。



次に、「私たちの架け橋を進めよう」というテーマで、古賀先生からご講演いただきました。それぞれの地域で「架け橋」を進めるには、まずは、立場が違って『楽しく語り合うこと、関心をもって聞き合うこと、そして、プラスワンのアイデアを出し、改善につなげること』を教えてくださいました。この日の参加者もテーマについて熱心にグループで協議をされている姿がありました。また、研修会後のアンケートに下記のような質問があり、回答していますので参考としてください。

Q、架け橋期のカリキュラムの作成のポイントについて知りたい。

A、まず、小学校ブロックで架け橋ミーティングをすることが大切です。その地域でどのような子どもの姿を目指すのか「目指す子ども像」について協議し、その実現に向けた取組を足跡として残していきます。毎年、カリキュラム通りにするためのものではなく、実態に合わせて改善していきましょう。（京都市幼保小の架け橋プログラム 手引き P.24～29 参考）

Q、どのような考え方をすれば、「授業の質」が上げられるのか。

A、子どもの学びは、幼保から連続しています。幼保の環境設定、保育者の関わり、架け橋期の子どもの活動の姿から育ちを読み取り、つなぐ視点をもつこと、一斉授業から脱却し、子どもが学びたいという思いや「問い」をもてるような単元との出会いを工夫すること、ICTなどを活用し学びの個別化と共有化を図ること、対話することで学び合い、子どもたち同士が学びを広げ深めることを意識した展開を考えることが「授業の質」の向上につながります。



第10回 京都市架け橋会議

9月18日 開催

京都市架け橋会議は、子ども若者はぐみ局と京都市教育委員会が連携し、本市の幼保小の架け橋プログラムの取組推進を図るため、令和4年度に立ち上げました。大学教授などの有識者、私立幼稚園や民間保育園の団体、幼稚園長会、小学校長会、幼稚園・小学校のPTAなどの関係団体の代表者などで構成し、具体的な支援策等について協議・検討を行っています。

9月18日に今年度第1回目の京都市架け橋会議を開催し、委員の皆様からは次のようなご意見をいただきましたので紹介します。

- ・校長会で架け橋に関する臨時委員会を立ち上げ、主体的・対話的で深い学びの実現に向け取り組んでいる。各校の状況を把握し、全小学校が第一歩を踏み出し、取組を推進できるようにしていきたい。
- ・小学校には複数の園から入学してくるが、それぞれの園に特色がある。園も小学校もお互いの違いを知り、一緒にやっていくのが架け橋だと思う。
- ・園は架け橋を進めたいという気持ちを持っているが、一方で小学校が大変なので負担をかけたくないという思いがあり、どうしても園から声をかけにくいので、小学校から声をかけて貰えると有難い。
- ・市立幼稚園は、就学前施設同士の横のつながりと小学校をつなぐけん引役になりたい。小学校とつなぐ、地域とつなぐハブとして関係を構築していきたい。
- ・保護者には遊びが学びにつながることやスタカリの取組・効果など架け橋の取組が進んでいることを積極的に発信してもらい、もっと保護者に知ってもらいたい。



～スーパーバイザー 京都教育大学教授 古賀松香先生からの助言～

架け橋プログラムの取組は大変だが、主体的な子どもの育ちを応援するために実施するもの。例えば架け橋プログラムの成果の1つとして、全国的に1年生の行き渋りに効果があがっています。すべての子どもたちのために、私たち大人の理解と行動を変え、もう一歩先の架け橋プログラムを進めていただきたいと思っています。

